

フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「わかちあい」・「ありがとう」へ



基本情報 2023年度の累計 (2022年度寄贈365ト提供368ト)

寄贈 **285.1ト** 前年同期比101.3% 提供 **284.3ト** 前年同期比96.7%

1月

寄贈食品計 33.3ト

企業・生協等	24.2ト
フードドライブ	9.1ト
寄付金購入	0.0ト

紙幅に限りがあり、
敬称略で報告します。

提供食品計 312回 36.1ト

行政・社協	51回	3.6ト
地域フードバンク	92回	10.7ト
こども食堂等	132回	10.6ト
施設・福祉・外国 関連	37回	11.2ト

寄 贈 (入庫)

入庫重量33.3トは前年比177.7%、
前月比134.7%。大量の防災備蓄品
の寄贈と冷凍食品の安定的な寄贈
による

提 供 (出庫)

出庫重量35.9トは前年比184.2%、
前月比138.7%。

〇事業者寄贈

マルハニチロ(株) (冷凍総菜、冷凍野菜等3.5ト)、山崎製パン(株) (パン)、相鉄ホールディングス(米)、相鉄ローゼン(米)、(株)ミツハシライス(米)、日本農産工業(株) (ふかひれスープ)、綿分商店、日生協、ユーコープ

〇防災備蓄品

川崎信用金庫、茅ヶ崎市、葉山町、早稲田大学、ラムーナ横浜団地管理組合

〇フードドライブ

イトヨーカドー (26店舗)、無印良品 (39店舗)、そうてつローゼン、イオン、高島屋横浜店、クイーンズ伊勢丹、大塚商会、スズキ自販、ドコモCS、東芝ライテック、相鉄ビルマネジメントジョイナス営業所、逗子グリーンヒルズ自治会、駒岡丘の上こども食堂、横須賀市、綾瀬市社協、栄区役所、JA中央、JA横浜磯子、JA湘南女性部、高等学校教職員組合、日立労組神奈川県西支部、シニア連合、湘南地域連合・労福協、川崎労福協、三浦半島労福協、富士フィルム生協、パルシステム神奈川、生活クラブオルタ館・たかつぽー・逗葉 commons、県連賀詞交歓会、ワークピア横浜他

〇米一合運動/プロジェクト

横浜市教育委員会・横浜市社協

〇行政・社協・委託 33団体

横浜市・区社協、横浜ひとり親支援(横浜市母子寡婦福祉会)、川崎市、相模原市、横須賀市、鎌倉市、小田原市、茅ヶ崎市、厚木市、海老名市、伊勢原市、葉山町、藤沢市社協、平塚市社協、綾瀬市社協

〇地域のフードバンク 46団体

たすけあい、お福分けの会、カナキリスト教会、川崎医療生協、くろーばーマーケット、さろんど、フードコミュニティ、ちゃりTea屋♪、報徳食品支援センター、食支援ネットかながわ、さろんど、マモリヤ、ユナイテッドかながわ、FBふじさわ、FB浜っ子南、FB湘南、セカンドリーグ神奈川、ホームタウンみなみ、他

〇こども食堂居場所等 90団体

あさみぞふれあい夢広場、青丘社、アスリード、アフリカヘリテイジコミュニティ、おもしろカンパニー、スペースナナ、かみつるまひまわり食堂、湘南まぜこぜ計画、しあわせ配達便、子ども食堂がじゅまる、ドリームセンターこどもカフェ、ひまわり、ぱくぱく食堂、金沢こども食堂すくすく、なかよし大船こども食堂、他

〇福祉・病院・外国関係 26団体

スマイルネットありがとう、ブラジルSolidario、スマイルオブキッズ、カラー、国際交流支援BP、SSネット、児童家庭支援センターかわわ、たすけあいうい、他

合意書締結団体

寄贈締結団体	291団体
提供締結団体	363団体
行政・社協	63団体
市民団体	300団体
(子ども食堂・居場所・施設・福祉関係)	
フードドライブ回収拠点	350か所

賛助会員寄付状況

団体会員	225団体	726口
		726万円
個人会員	318人	1874口
		1,874,000円
寄付		
2023年度	10,692,094円	
累計	88,476,670円	

【能登半島地震被災地支援活動団体紹介】

ちゃりTea屋♪ (横浜市港南区)

日本全国の被災地支援活動を行う
フードバンクかながわ登録団体の

「ちゃりTea屋♪」さんがこの度の令和六年能登半島地震の被災地支援活動としてフードバンクかながわより提供した食品を積んで向かわれました。支援物資を七尾市役所と支援拠点から離れ支援が届きにくい店舗にお届けし、能登町立柳田小学校での炊き出しを無事に終えたとのこと報告を頂きました。

小さく閉ざされた地域ではまだまだ支援の手が届きにくく、経験豊かなちゃりTea屋♪さんの市民活動による細やかな支援が、被災された皆様への励ましやお力になったことと思います。

被災地では厳しい状況が続いていますが、ちゃりTea屋♪さんの支援活動によって、皆様から寄贈頂いた食品が被災地へとつながりました。



フードバンクかながわから食品提供

1/5フードバンクかながわから米60kg、非常食セット、レトルトカレー等と
フードドライブで集まった主食、副食、菓子等合計1,000点の食品を提供

ちゃりTea屋♪さんによる食支援活動



七尾市役所等への支援物資お届けと能登町立柳田小学校での炊き出しの様子

食品を利用された方々からの「ありがとうの声」をご紹介します

♥物価が高騰している中、食材をご支援いただけることは本当に助かっています。子ども達におなかいっぱい食べさせてあげたいです。いつもありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

♥毎食の食品のお渡し会を子どもが楽しみにしています。いつもは食べられないお菓子などもたくさんあって本当に嬉しいです。ありがとうございます。

♥お米は本当に助かります。いつもありがとうございます😊

♥お菓子は普段なかなか買ってあげられないので、子どもがとても喜んでます。

♥食べ盛りの子供達がいるので、お米はとても助かっています😊



♥体調や家庭状況等の影響で、なかなか大学生として勉学に励むのが難しい状況でしたが、皆様のご支援のおかげで普通の生活や勉強ができるようになってきました。心より感謝申し上げます。私自身としても少しでも人の役に立てるよう、ボランティア活動に従事するようになりました。勉学やボランティア活動、様々なことに取り組んでまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い致します😊

♥冬休みになると家で3食用意しなくてはならないので本当に辛いです。日持ちする食品を一定量頂けるので、何とか新年を迎えられます。

1月のフードバンク



1月は食支援活動に冷凍食品を活用するための「情報交換会」、学校給食政府備蓄米の交付申請に向けた「政府備蓄米申請説明会」と2つの大きなイベントを開催し多数の団体にご参加頂きました。2022年度より進めてきた冷凍食品の活用ですが、企業や団体等の連携により、より多くの食支援活動につながっていくと思います。

2月には生協で取り組んだフードドライブ品が続々と倉庫に届きます。それとともに食品の仕分け作業におおぜいのボランティアさんのお力が必要となります。ボランティア参加にもぜひご協力をお願いいたします。



フードバンクかながわ
ホームページ



日本農産工業(株)様より
ふかひれスープの寄贈



綿文商店様より
レトルトごはんの寄贈



JA神奈川中央会様、会員の
小泉様よりお米の寄贈



ナチュラルコップ・ヨコハマ様
フードドライブ



中央ろうきん神奈川本部・業務
集中センター様フードドライブ



JA横浜様牛乳と混ぜて作る
デザートフルフルの寄贈



ご寄付頂きました

日本発条労働組合横浜支部様

神奈川シニア連合様



体験研修

神奈川シニア連合の皆様

政府備蓄米申請説明会 1/26 (金) オンライン併用



学校給食用等政府備蓄米の交付申請に向けて、農水省農産局穀物課米麦加工対策室および関東農政局生産振興課より担当官にご参加頂き、子ども食堂や子ども宅食に取り組む団体スムーズに申請を行うための説明会を開催しました。

1/9 神奈川県生活協同組合連合会賀詞交歓会にてフードドライブ開催

39点、5.3kgの食品が集まりました。ご協力ありがとうございました。



食支援活動をステップアップする情報交換会 開催報告

食支援に冷凍食品をもっと使おう

2024年1月25日 (木) オンライン開催

参加者 57名

—冷凍食品のコールドチェーンの確立をめざして—

フードバンクかながわが実施したアンケートによると、冷凍食品利用団体の81.6%が利用者の満足度が上がったと回答しています。冷凍食品の利用は受配送が課題でしたが、パルシステム神奈川のセンターの協力、セカンドリーグ神奈川との連携により、中継点を県内で十数カ所に増やすことができました。食支援活動へのさらなる冷凍食品の活用をめざして情報交換会を開催しました。

マルハニチロ株式会社

経営企画部 サステナビリティ推進グループ

主任 志村 遥夏さん

「フードバンクへの冷凍食品の定期的提供」

深刻化する気候変動、水産資源減少リスク等、グループを取り巻く社会環境課題に対してサステナビリティ戦略の見直しを図り、「2030年までにフードロス（製品廃棄）を2020年度比で50%削減」という目標を掲げて推進している。グループで発生するフードロスの9割が冷凍食品であり、海外生産した冷凍食品の輸送時の外装破損や抜き取り検査残などにより、どうしても発生してしまうフードロスに対し、マルハニチロ、物流会社、フードバンクかながわの三者が企業の枠を超えて連携することによって、冷凍食品の有効活用が実現した。その結果、上記フードロス削減目標に対し、2022年度は対2020年度10.4%の削減につながった。

食支援へのニーズが増加する中、寄付食品としての冷凍食品の可能性は高まる一方である。フードバンクによる保管倉庫の確保や提供企業物流の効率化等の課題を双方の連携強化によって克服し、継続的な食支援につなげていきたい。



特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

事務局長 松山 吉和さん

食支援「ビーバーリンク」における冷凍品の取り扱い

県内14カ所でパルシステム神奈川との連携により食支援活動を展開する。冷凍ビーバーリンクの活動はフードバンクかながわからセカンドリーグ神奈川への冷凍品提供によって実現した。運営、物流、資金面の課題解決することで、さらなる利用拡大の可能性を探る。

報徳食品支援センター

理事長 本岡 俊郎さん

報徳食品支援センター冷凍食品の取り組み

2022年にフードバンク活動開始当初から冷凍食品を重視し、2023年よりフードバンクかながわとの協力体制を強めて冷凍食品のシェアを上げた。揚げ物メニューは子ども食堂でもとても好まれており、今後は冷凍食品の調理講習会、高齢者向け総菜提供の仕組みやモデルキッチンの整備等、冷凍食品活用に向けた取り組みを広げていく。



お米のご寄付をお願いいたします

*米一合から何トンでもお受けします。

*お金のご寄付やお米券もお受けしています。